

水産放浪歌

富貴名門の女性に恋するを純情の恋と誰が言うぞ。

暗鬼紅灯の巷に彷徨う女性に恋するを不情の恋と誰が言うぞ。

雨降らば雨降るもよし風吹かば風吹くもよし

月下の酒場にて媚を売る女性にも純情可憐なる者あれ。

女の膝枕にて一夜の快樂を共に過ぎずんば人生夢もなければ恋もなし。

響く雷鳴 握る舵輪 睨むコンパス六分儀

吾ら海行く 鷗鳥 さらば歌わん哉

吾らが水産放浪歌

一

心猛くも鬼神ならず

男と生れて情はあれど

母を見捨てて浪越えてゆく

友よ兄等よ何時また会わん

二

朝日夕日をデッキに浴びて

続く海原一筋道を

大和男子が心に秘めて

行くや万里の荒波越えて

三

波の彼方の南氷洋は

男多恨の身の捨てどころ

胸に秘めたる大願あれど

行きて帰らじ望みは待たじ

注 成立事情不明なるも蒙古放浪歌

(仲田三孝作詞、川上義彦作曲)の

換え歌と推定される。